

令和２年度第１回林政審議会施策部会議事録

１ 開催日

令和２年９月１８日（金）

２ 方法

書面による開催

３ 委員（五十音順、敬称略）

斎藤幸恵、立花敏、塚本愛子、日當和孝、松浦純生、丸川裕之、村松二郎

４ 議題

（１）令和元年度 森林・林業白書の総括について

（２）令和２年度 森林・林業白書の作成方針（案）について

５ 審議結果

令和２年度 森林・林業白書の作成方針（案）について、委員全員の同意を得た。

この際、各委員からは、別紙のように意見があった。

令和2年度第1回林政審議会施策部会 御意見まとめ(敬称略)

(1)議題1 令和元年度白書の総括

カテゴリー	委員名	御意見
R1白書全体	日當 和孝	・図表、写真が多く、更にカラーページであることから見やすい白書になっています。 ・地元の林業関係へ就職を目指す高校生への推薦図書に白書が選ばれ活用されているという話を聞いた。ありがたい。
	村松 二郎	・好意的に読んでもらっていると感じた。できるだけ多くの方に読んでもらいたいと思う。前向きにとらえる好意的な声が多いようで良かった。
R1内容全体	斎藤 幸恵	・大学3年生に対して白書に関するレポート課題を出したところ、①掘り下げたいトピックとして最も多く選ばれたのが、中山間地域(5名)、続いて震災(3)、生物多様性、SDGs、人材(2)で、バイオマスエネルギー、SDGsも挙がっていた。②次の白書で読みたい内容として、半分の学生がコロナを挙げていた。「何に対してどのくらい影響したか、数値で知りたい」との関心のほか、「コロナでテレワークなどが広がる中で、ワーケーションなどの森林の効果や内装材など木材の効果をPRしていったらどうか」という意見があった。その他、スマート林業や国際的な取組が上がっていた。(ただし6月末〆切のため今年の白書は読んでいない可能性もあった。)
R1構成	立花 敏	・筑波大学生物資源学類2年生の演習、研究室のゼミで白書を輪読している。その中でトピックスの位置が気になるという学生からの意見があった。特集と通常章の間にピックスが入ると、読んでいて流れが途絶えるようで違和感があるというものであった。
	塚本 愛子	・トピックスは、森林経営管理制度等の林政史上重要な話題が取り上げられているが、今年度から構成が変わり、特集と通常章に挟まれる形となり埋没してしまった印象を受けた。
R1特集	斎藤 幸恵	・コロナ禍のなかでSDGsは明るい話題だった。リクルート世代に対して林業を明るく見せる話題は良いと思う。
	塚本 愛子	・特集は、広範囲な課題への取り組みであるSDGsとの関わりを明らかにすることで、森林・林業・木材産業の新たな可能性を示すことができ、良い企画であった。
R1普及・広報	立花 敏	・充実した内容になっていると感じた。その中で、白書で取り上げる事例について、掲載していることを事例先に知らせると共に、広報にも活用して戴けるように働きかける必要があるのではないか。記事を使って様々にPRして戴ければ、それがきっかけで白書に関心が高まると期待される。私たち委員としても、積極的に紹介するように努めていきたい。
	塚本 愛子	・新型コロナウイルス感染症により広報には苦勞されたと思うが、「オンライン説明会のため参加できた。」との評価も頂いており、従来の対面方式と両者のメリットを最大限活かした効果的な広報活動を進めていただきたい。
	日當 和孝	・普及が進んだWEB説明会なども次年度以降検討してほしい。
	松浦 純生	・白書はいつ公開されたか。また、公務員試験の願書の〆切はいつか。大学で説明をしているということなので、時期が合えば就職活動期の4年生のモチベーションにもつながると思う。後であれば3年生以下に広く知ってもらうことで役に立つものと思う。
		・日比谷カレッジは動画を撮ってYouTube等で公開できないか。あらかじめオンライン公開することを演者に周知し、同意を得ることが必要。その際、スライドで引用する図表については、版權を明示するとともに使用しても良いものか、演者に確認してもらう。ネット公開については手間がかかるが、今後、このような情報発信は重要になってくると思われる。
	丸川 裕之	・企業に携わるものとしては、林業の業界紙だけではなく、一般紙(全国・地方紙)や専門誌にも掲載されるのが望ましいと考えるので、一律のプレスリリースや個別のレクで例えば、立花部会長や林野庁の部・課長の方がインタビューに応じるような企画も考えて頂きたい。

(2)議題2 令和2年度白書の作成方針(案)

カテゴリー	委員名	御意見
R2構成	塚本 愛子	・これまでの方針を踏襲するということで異議はない。
		・構成順については、トピックスは、本文への導入という意味合いもあることから、トピックス、特集、通常章の順番が全体のバランスが良いように思われる。
R2特集	斎藤 幸恵	・この特集テーマに関連して、テーマを構成するそれぞれのトピックスの主だったものについて、現状に加え、これに至った経緯(歴史)についての記述があったらよいと思う。掘り下げた解説がなされていると、白書でこれから林業を学ぼうとする方々に、問題がよりとらえやすく理解しやすい号になると考える。
	立花 敏	・特集案について、森林経営管理制度、森林組合法改正等を受けて「林業経営」を取りあげることは時宜に適っている。ゾーニングを念頭に、生産林を対象にどう林業経営を成り立たせるかを分析し、林業経営の要件や方向性を示せば、今後に大きな意味を持つ。併せて、それ以外の森林の管理の在りようにも触れられると良いと思う。特集のタイトルには「守る」よりも「活かす」を用い、積極的な、明るい方向を示せると良いと思う。
	塚本 愛子	・森林・林業基本計画の見直しの時期となっており、現行の基本計画を総括し次期計画に繋げるという意味でタイムリーかつ適切と考える。
		・現行の基本計画のもとに講じてきた様々な施策(例:施業集約化、森林関連情報の整備、造林コストの低減、路網の整備、林業事業体の生産性、経営力の向上等)の取り組み状況、成果及び課題を明らかにし、今後の方向性を示すことは非常に意義あることだと考える。
		・戦後造成された森林資源が成熟し、育てる時代から利用する時代へと大きく変化する中、持続可能な森林経営を実現することが非常に重要であることを、多くの方々にご理解いただける内容としていただきたい。
		・林業が抱える経営課題を、森林整備に係る新たな枠組み(森林経営管理制度、森林環境税等)の中で、具体的にどのように解決していくかの道筋を示すことは、林業関係者のモチベーションや林業関係者以外の方々の林業への理解を高めるという点で、有効であると思われる。
	日當 和孝	・林業経営については、当事者としても課題を感じているところ。林業を明るく見せる白書であってほしい。この大きなテーマをどうまとめるかが想像できていない。大事なテーマであるのはその通りであり、「よし、これでいくのだ」と思えるものとしてほしい。
	松浦 純生	・林業経営は昭和56年に特集があった。40年前の特集をきっちりレビューして、当時の方針と実際の乖離、社会情勢の変化、それを今後どう活かしていったらいいかなど、反省と教訓を反映してほしい。この時期は林業が斜陽化していく時期だと思う。「反省と教訓」に加え、林業が斜陽化していく中で、知恵を絞り必死で考えた方策が多数あるはずで、それらは貴重な参考となると考える。いろいろな資料に記載があり、次期の特集テーマでも活かせると思う。是非、過去白書を精査いただきたい。
		・「林業経営」というのが地味でまじめな感じなので、キャッチーな言葉で若者の心をつかむことを考えてほしい。若い人にも興味を持ってもらえるのではないかな。

	丸川 裕之	ここ数年、特集のテーマは技術、人材など、もっと目的を絞っている。林業経営は、林政審議会本審で議論するべきもっとも根本的なテーマと考える。懸念されるのは、或る程度焦点を絞らないと、内容がぼやけるし、逆に網羅して全て書かないと、カバーできていないと評価されるかもしれない。 また、白書は実績を中心に記載するのが普通だが、今後の可能性を提示(提言)するのであれば、十分議論が必要。 このテーマをやるのであれば、施策部会の回数が少なく、もう少し集まったほうが良いのではないか。 (例えば1回/月)
	村松 二郎	・白書は、今までやってきたことの状況や数字を示すという考え方の中で、今回の特集案はそれらを分析して林業経営の方向性、向かっていくべき本筋を提示していこうというすごいテーマ。コロナで、林業は他の産業に比べ、それほど影響が表面化していないが、木はさばけず、今後木材の需要が減って、影響が表面化する。現在50年生の使える木が半分以上で、今後人口減少を受けて木を使う人が減っていく恐怖感があるこの中で、このようなテーマを審議していただけるのはありがたい。今まさにというテーマなので期待している。バリューチェーンの再構築は昔から言われてきたが、現実にはうまくいかない。林業も既得権益が強い世界なので、これを打破できるのかという点も気になっている。実りあるものを出せるようにしたい。
R2トピックス	立花 敏	・COVID-19感染症の影響を令和2年度白書で大きく取り上げるのは難しいのではないか。住宅着工戸数は、現状で前年同月比1割程の減だが、消費者行動を踏まえると、来年にその傾向が強まる可能性が考えられ、令和3年度白書にする方が良いように思われる。令和2年度白書では、トピックスで簡潔に影響や動向を記載するのが良いのではないか。
	塚本 愛子	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、日本経済の先行きも不透明感が強まっていることから、例年以上に、森林、林業の元気な未来像を想像させる明るい内容としていただきたい。 ・スマート林業、中大規模木造建築の普及などの分野で、次世代林業、木材産業を牽引する話題を取り上げていただきたい。
	日當 和孝	・トピックスのネタとして大賞祭はどうか。国有林が協力しており、一世一代の行事でもあるので、何らかの形でとりあげてはどうか。
R2通常章	立花 敏	・来春に東日本大震災から10年になることから、当該章を可能な限り充実させてほしい。
	日當 和孝	・東日本大震災から10年となることから、この機会に区切りをつけ総括してはいかがか。